

新春記念 会 長

高木 茂知

公益社団法人 日本技術士会 会長



『技術士の価値』を 一層高めるために！

【高木】 明けましておめでとうございます。本日は新春対談ということですのでよろしくお願い致します。

【山東】 明けましておめでとうございます。こちらこそよろしく。

【高木】 山東先生には日頃から日本技術士会が大変お世話になっております。様々な会合にもご出席いただき、応援の言葉も頂戴しありがとうございます。また、与党技術士議員連盟を立ち上げていただき、その会長職にもご就任いただき、感謝申し上げます。

技術士の価値

【高木】 私は平成元年に技術士の資格登録を行いました。確か平成2年に科学技術庁長官になられていました。

【山東】 そうです、平成2年に大臣でした。

【高木】 私が技術士に合格したのが、ご就任の1年前だったので、残念ながら技術士の登録証に所管大臣のお名前が先生でなく残念な思いです。当時、親に「技術士になったんだ」と伝えたところ、どんな資格がよく分かっていなかったようですが、何かで調べたようで、「国家資格で、えらい難しい試験らしいね」ということを言ってくれました。このように、社会における技術士の認知度は非常に低いというのが現状です。そこが大きな課題だと思っています。そんな中で議連を立ち上げていただいて、「技術士」の活用が議論され、いろんなところに「技術士」という存在が知られていくのはすごくありがたいと思っています。日本技術士会にとって、それが非常に励みになって、これから我々も一層頑張らなければいけないという思い

でやっております。

【山東】 「士」と名のつく資格はいろんな分野であります。社会の中で技術士の存在や活躍は、なくてはならないものですが、一般の人たちから見ると接する機会がありませんね。技術士は、一部の専門分野の人たちには存在感があるわけですが、社会の中で本当に広くいろんな形で必要性を訴えるということでアピールをしていかなければならないと思います。世界では国によってはまだまだ技術レベルが低いためにいろんな事故が起きたり事件が起きたりということがありますし、私どもから見ると、日本も、とにかく公共のものも含め、なるべくお金をかけないようにしようということになっていますね。技術とかさまざまなものの価値観がちょっと移っていったような気がするんです。技術の世界

特別企画 対談



山東 昭子

自由民主党 参議院議員
与党技術士議員連盟会長

的な発展の中で、日本の技術というものは世界に向かって誇れるものです。そんな中で、会長にいろいろ技術士の実態とか、これからどんなふうに動いていかなければいけないのかとか、お聞かせ願いたいと思います。

【高木】 技術士法ができて60年たちました。高度成長時代には、ある意味個別最適であったかもしれませんが、国を発展させていくために、我々も様々な活動をさせてもらいました。しかし、グローバル化が進み成熟化した時代には全体最適が求められます。政府から出された「第5期科学技術基本計画」の中に「超スマート社会の実現（Society 5.0）」の構想が謳われていますが、まさにそこかなと思っているんです。グローバル社会の中で様々な課題がありますが、多様な技術者が

そこで知恵を出して共通の課題を解決していく、そんな時代にしていければ、技術士の価値も高まるのではないかと考えています。

現在、技術士の登録者の実数は約8万8000人です。その中でも非常に偏りがありまして、建設部門が最も多く、そのほか、上下水道、農業、電気電子といった公共工事に関わる領域を持つ部門が多いという傾向です。技術士には21部門ありますが、その部門ごとに関連する学会があります。例えば機械学会の会員数に対する機械部門の技術士の割合は、10数%となっています。他の技術部門も同様な状況になっていて、多くの業界で技術士資格が活用されていないように思います。

建設分野などにおいては、多くの技術者が技術士の資格を取って活躍していますが、他の分野では技術士

の資格を用いて活躍している状況にはありません。そこをどうしていくかが技術士制度としての大きな課題です。

【山東】 資格を取っても、なかなか自分たちの収入に呼応しないとよく言われていますね。技術士として仕事をする際、この人はベテランだからある程度費用も出し、この人は資格を取ってから日が浅いから、というように収入に違いを出していくことは中々難しいのですか。能力の差は若くてもあるのかもしれないけど。

【高木】 それは仕事を依頼する側が、その技術士に対し、どの程度信頼するかというところで決まると思っています。個人事務所を開いている技術士の方は、いろんな企業と契約をしていますが、相対での取引をされています。一方、建設コンサルタント業界では、技術士であればこのくらいの単価で契約しますよというのがあります。そのレベルに到達する前の段階の人、もっと上の段階の人ということで単価が決まって発注されますので、技術者としての能力に応じて単価が決められる仕組みができています。

【山東】 そうですか。弁護士や何かでも能力に応じてかなり格差といえましょうか、収入に差があるようです。そういう意味で技術を持っている人とか経験とか、そういうものを考えると、メリハリはついたほうが、やりがいがあるということはあるかもしれませんね。

【高木】 そうですね。技術士の業務としては、顧客から「この人をお願いしたい」といった信頼感の大きさが左右すると思います。そのためには、技術者としての技術と経験といった面だけでなく、技術者としての倫理観が重要です。

昨今、マスコミ等で企業の不祥事



山東 昭子

参議院議員

11才から女優、司会者、討論番組等、映画、TVで活躍
1974年 参議院全国区32才最年少当選
環境政務次官2期、参議院環境委員長を歴任
1990年 科学技術庁長官に就任（最年少女性閣僚）
2007年 参議院副議長に就任（女性初）
2017年 与党技術士議員連盟会長

などの報道がありますが、技術者としての倫理、そこは日本技術士会でも非常に大切にしている、そこをもっとアピールしていくことで企業、産業界に幅広く受け入れていただけないかと考えているところです。

【山東】 実態は分かりませんが、やはり信頼されている日本を代表するような企業の中で、そこに働いている人たちが、何か自分たちの都合でいろんな情報を開示しないとか、何かがあったときにも認めないということになったら、目先の問題ではなくて、大きく長年続いて積み上げてきた企業の信頼が大きく揺らぎますし、やはり国民も不安になります。ですからそうした企業に従事する人たちの一人一人の自覚や誇りとして、いいものはいい、改善すべきものはする、ということは明確にしていくなが必要があると思います。そのためには技術士の存在価値というものをもう少しきちんとした形で認めるということが重要でしょうね。

【高木】 技術士は、ただ単に高度な

技術力を持っているだけではなくて、技術者倫理も兼ね備えている、社会の規範に従った行動ができますということが、産業界に対する大きなPRになると思っています。

技術士の育成

【山東】 昨年の11月の初めに女性科学者交流の関係で久々に北京に行きましたら、とにかく中国の道路が7車線ずつなんていうのを見ると圧倒される部分もありましたが、変わったデザインの建築等は果たして本当に大丈夫かな、ソフトはどうかという感じで、いろんな部門がちょっと欠けているな、という感じを持ちました。特にサービス業とかを考えると、人材の育成というようなことは今一という感じがしました。技術士の皆さん方の育成とか会長はどんなことをお考えでしょうか。

【高木】 技術士は資格を取って一人前ではなくて、継続研鑽をしていく中で成長していくんだと思っています。それも自分だけで学ぶのではな

く、日本技術士会の最大の特徴である様々な部門の技術者とのコミュニケーションが大いに刺激になります。日本技術士会では、テーマを設けてセミナーとか研修会を行っているのですが、自分の専門分野からのものの見え方と他の専門分野からでは異なっていることに気づかされます。様々な専門技術者がいて、いろんな視野を持った人がいるということ、それは会としての強みだと思います。

もう一つは、技術士になる手前の人への教育・研修制度です。技術士補の登録の問題もありますが、一次試験合格後と二次試験受験までの期間に、いかに技術士に必要な能力開発をしてもらうかが重要です。

【山東】 そうした期間は相当長いのですか。

【高木】 長くかかる人もいますが、短い人は3年ぐらいでもいけます。JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定コースを卒業したら一次試験が免除になりますので、二次試験受験までの期間の教育・研修プログラムについても検討していこうと考えています。

女性技術士の躍進

【高木】 最近、若い方と話しをすると、女性が特に元気がいいですね。海外で働いてみたいという女性が男性よりも多いくらいです。技術士の登録者数の全体で女性は2%を切るくらいですが、最近の合格者で女性は5%ぐらいになってきていま

す。まだ絶対数は少ないのですが着実に伸びています。この前、日韓の技術士が交流する会議がありまして、女性技術士の交流会もあったのですが、韓国も日本と同じような状況のようです。

そんな中で、日本技術士会では今年6月に選出された理事30名のうち、3名が女性の理事になりました。過去に女性1人が理事になったことはありますが、本会としては画期的なことです。この任期の2年間で、どんな活動ができるかが試金石です。先生は長い間、女性議員として活躍されていますが、アドバイスをいただけるでしょうか。

【山東】 やはりそういうポジションを与えられるといろんな形でやる気が出てきますね。

昔の日本は、いろんな分野で弱い立場の女性には男性は非常に優しく接してきました。女性が能力を持って台頭してくるとちょっと面白くなくて、「女、子どもには負けたくない」という意識が一頃強かったのですが、最近が変わってきました。能力のある女性の下ならばやっという男性が特に若い人たちの中に出てきました。

また、女性はちょっと難しいと思っていた分野で、トラックの運転手とかも女性が多くなってきました。私が80年頃に男女雇用機会均等の法案の改正をしたときは、日本の女性のタクシーの運転手はまだ1700人ぐらいだったのです。子どもを抱えた女性運転手が深夜に駅

から団地に客を送る、というのが効率良くペイもいいのですが、12時以降は働いてはいけなくなっていたのでそれは改正しました。建築関係では1級建築士のライセンスを持っていた、女性は8メートル以上は上がってはいけなかったのです。私も知らなかった。ビルの設計が多いときに、そんなことを言っていたら全然仕事にならない。それも私どもが改正し、クリアしてきました。ですから、いろんな点で障害は少しずつ減ってきました。

今は国を挙げて女性活躍というようなことで企業の中でのインナー保育なんかも出てきていますし、子育てという面ではどんどん改善されていくと思います。反面、その裏返しとして長寿社会になってきたので、両親が皆さんいるわけで介護の問題がでてきた。自分の親だけではなく、パートナーの親御さんの介護も。それがどうしても女性にかかってくる。そのために重要なポジションに就いたにもかかわらず諦めなければいけないということもあったり

して、ちょっと無理が出ています。

介護施設の人を充実させるなどして、技術やいろんな能力を持った女性がどんどん働いてもらうような環境を私たちも整備していかなければいけないと思っています。

【高木】 インターネットの社会になってきていて、必ずしも職場に行かなくても働けるような環境も整いつつあります。しかし、出産・子育てから介護までの期間を考えると、制度や仕組みだけでなく、男女が双方で負担していく意識が高まってこない、多くの女性が技術士として活躍し続けるのは結構ハードルが高いことだと感じています。

女性の技術士の活躍に関し、常々思っていることがあります。社会にしているのは男女がほぼ同数なのに、そこに係わる技術者がこれだけ偏っていたらまずいだろう、男性が考えたことがそのまま政策になっていくのではなく、女性の視点、女性の感性をその中に取り入れていかないと駄目だと思っています。

【山東】 すべての分野でそうですよ

高木 茂知

技術士（建設／総合技術監理部門）

1954年 愛知県で生まれる
1979年 パシフィックコンサルタンツ（株）入社、
河川・防災技術者として活動
2007年 公益社団法人 日本技術士会 理事就任、
その後建設部会長、副会長を歴任
2014年 パシフィックコンサルタンツ（株）
代表取締役社長就任 現在に至る
2017年 公益社団法人 日本技術士会 会長就任





ね。昔は自動車を一つ買うにしても家を買うにしても、お金を出すのは男性だったわけですが、それが変わってきました。選別に当たって最後に決断するのは奥さんであり女性であるという形で。そういう点で女性のウエートが重くなってきたと思います。

今までも文部科学省でいろいろな対策はしているのですが、女性が働く上でシステム上まだまだ充実していない部分があるので、女性科学者、技術を持った女性、そういう人たちを支援するために議員連盟をつくらうということになっています。

地域の問題

【高木】 今、日本社会は少子化・高齢化が顕著になっており、増田寛也さんが提言された「消滅可能性都市」も話題となりました。一方、外国のお客さんが日本にどんどん来てくれるようになっており、それをチャンスとして捉えなければいけないとも感じています。その中で、地域を、この国を今後どうしていくのかといった点において、技術士がどういう立ち位置で、どんな活動をしていけばいいとお考えでしょうか、ご意見をお聞かせ下さい。

【山東】 少子化と言われますが、国によってフランスなどは日本の半分

ぐらいの人口なのに、とても幸せに暮らしているわけです。人は多いほうが私としては活気があるとは思いますが、日本において一体人口というものはどのくらいが適切なのか。そうした分析がある意味ではなされていない。大変だという話ばかりが先行して、高齢化ということが全部マイナスのような形でいわれていますが、長寿社会は素晴らしいことじゃないかとある意味では思うのです。

地方の人が学業や就職で中央に集まりがちですが、地方においての存在感ということがとても大事だと思います。元気な人がたくさんいて、インバウンドの人たちを迎える、語学を勉強している人、ガイドやボランティア活動をする人もいる。地域の伝統文化や民話とか、地域で年を重ねた人でなければ知り得ないものをきちんと伝える使命もあると思います。また、日本を深く知りたいたいと思っていたり、昔の書物をすごく読んでいて日本の歴史を知っていて、むしろわれわれが恥じ入るほど日本の伝統や文化を熟知している外国人もたくさんいるわけです。そういう人たちのためにも、それぞれの地域の個性を尊重しながら育成していく、もっと別の意味で再生していくことが重要だと思います。

例えば技術士の人たちが古い家屋などをまた新しく生まれ変わらせ、それによって新たな経済を生み出す。私は食文化をやっていますから、食で農家などを変えて、オーベルジュのようにして、地域での地産地消を紹介するようなレストランにする。農村の中で食べさせる。そういうものをもっとこれから大切にしていかなければいけないと思います。

アメリカの未来学者のネイスビッツが、「これから発展をする産業は情報・流通・観光、この三つである」と言っていますが、観光という点では日本は大きな財産を持っています。美しい自然、素晴らしい食材、四季の変化もある。これは世界に対して誇れることです。ふるさとを愛する意識、それぞれの人たちの意識革命が必要だと思います。

【高木】 確かにそうですね。

【山東】 公共建築物など入札の際、公平のため外国人も加えています。やはり日本人ならではのものが建設されるべきだと思います。有名な建築家も参加されますが、むしろその地域の大学の学生に応募させて選ぶとか、地域性、地域らしさというものを尊重するようにしてもらいたい。

【高木】 そう言っていただいてうれしいです。日本というのはすごく多様な国ですが、その魅力は、住んでいる方々にはなかなか感じる事ができていません。しかし、外国の方から見たらすごく魅力的なものがいっぱいあると思うのです。

【山東】 外国と同じように作ると全然日本らしい魅力がないのです。商店街を直すにしても、自分の店だけではなく、商店街全体を見て店を直していくとか。日本は中古住宅というものがあまり評価されていませんが、アメリカだと中古が一番売れ

てそれをまたリフォームしていくわけですね。もっと発想の転換をしなければいけない部分がたくさんあると思います。

技術士制度の見直し

【山東】 日本技術士会として解決をしていかなければならない課題もありだと思いますが、新年に当たって会長としての抱負をお聞かせ下さい。

【高木】 今、文部科学省の科学技術・学術審議会では技術士制度について議論して載っていますが、日本技術士会においても一番の課題は技術士資格における更新制度の導入です。技術士登録者8万8千人のうち、登録上は90歳を超えた人が7000人もいて、最高年齢は140歳ということになっています。法律では登録事項に変更があれば届出をしなければならないことになっているんですが、ご家族もご存知ないためか手続きがされず登録上は抹消されないままのケースがあるようです。

また、技術士には資質向上の責務

がありますので、その確認といった問題もあり、資格の更新制度の導入の検討をすすめているところです。現在の任期の中で一定の解決をさせたいというのが、私の思いです。技術が日進月歩変わってきている中で、一度登録してしまえばずっと技術士ですよということはちょっと違うだろうと思っています。継続研鑽をしていきながら更新されていくということが必要だと考えています。そのことが取りも直さず社会に対して信頼を得ることにつながりますので、現在の技術士の方々の状況も考えながら更新制度の議論を進めていくつもりです。

むすび

【高木】 本日は、本当にありがとうございました。私が会長就任のときに目標として掲げたのが、「技術士が技術士として誇りを持って社会に貢献できる」です。技術士が技術士として認知されて活躍していける環境、それを何とかつくっていかう。技術士が誇りをもって貢献できる仕組みをつくっていかうとしていま

す。今政府が出されている政策に技術士が関与していけるように尽力していきたいと思っています。今回議員連盟をつくっていただきましたので、技術士の実態がどうなっているか、日本技術士会としてどのような議論をしているかということも含めて情報提供をさせていただきますので、ご指導を頂戴したいと存じます。

【山東】 役所も忙しさに紛れていまして、団体が団結をして大きな声でこういうことを、と必要なことは主張していただかないといけません。そういう点で議連をつくって主張をしていくということは、いい意味で重要なことだと思います。お互いに頑張っていきましょう。

【高木】 ありがとうございます。最後ですが、山東先生にはいつまでも若々しく、お美しく、健康でますますご活躍いただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

【山東】 ありがとうございました。

(了)

